

楽しい田植え

十社小学校の学習田にて5月22日(金)、十社小学校の3・4年生とその保護者たちが田植えを体験しました。児童たちは苗の植え方を教わった後、恐る恐る田んぼの中へ。当初、泥の冷たさや感触に声をあげていた児童たちでしたが、すぐに慣れると、楽しそうに田植えを進めていきました。手や足だけでなく、服も顔も汚しながら、一生懸命行った田植え体験。4年生が3年生に優しく声をかける心温まるシーンもありました。田植えを終えた児童たちは、「4年生の中で一番の思い出になった」「初めての田植えだったけど、上手くできて良かった」と話していました。この後、9月には稲刈りを、12月には餅つきを行い、1年を通して最後まで全力で楽しむ予定です。

1. みんなで苗を植えていきます 2. 泥に足を取られて転びそうに。「あぶない！」 3. 楽しく田植えをしています 4. 田植えを終え、集合写真撮影



企業と金融機関が連携し、地域農業の支援に繋がっていきます



農業関連物品を市へ寄贈

地域農業の振興につながる支援5月25日(月)、株式会社グランツホームと株式会社三十三銀行による農業関連物品の寄贈式がありました。建設事業を通じて地域や環境との関わりを大切にしている同社は、三十三銀行の社会貢献型私募債「ともに、羽ばたく。」を通じて、軽量チップソー150枚と生きてる液肥一式を市に寄贈しました。寄贈物品は、後日、市内の露地野菜生産グループ「いなべじ」などに渡され、地域農業に役立てられます。

1. どうぶつモチーフの積み木 2. 締結式後の記念撮影



木のぬくもりを届けたい

森林資源を使って五感を育む5月22日(金)、オークヴィレッジ株式会社と市の包括連携協定締結式が行われました。同社は国産木材にこだわり、商品を開発から製作まで行っています。市は、木のぬくもりを子どもたちに身近に感じてほしい、本物の木で木育ができるまちにしたいという思いから、同社と協定を結びました。今後は、国産木材や地域の森林資源を活用したおもちゃを製作し、子どもたちへ配布していく予定です。

三重県消防操法大会

大安北分団が準優勝6月7日(日)、鈴鹿市の三重県消防学校で三重県消防操法大会が開かれ、いなべ市からは大安北分団が出場しました。大会は消防団員の技術向上と士気の高揚を図るために2年に1回開催されるもので、県内から7隊が小型ポンプ操法の部に出場しました。当日は、降雨により足元が滑りやすい難しい条件でしたが、団員たちは落ち着いて動作を重ね、日頃の訓練の成果を十分に発揮しました。大安北分団は準優勝に輝き、力強く、きびきびとした操法で会場に強い印象を残しました。

1. 全体での集合写真 2.3.4.5 迫力のある号令、迅速かつ丁寧な動作、息の合ったチームワークを武器に、強豪チームたちと戦い抜きました



参加者代表の植樹の様子。丁寧に苗木を植えました



海へとつながる山を豊かに

三重県初の「セントレアの森」誕生5月30日(土)、「セントレアとつくる! 未来の梅の森プロジェクト 2026 in いなべ市梅林公園」が開催されました。中部国際空港株式会社は、「山づくりから始める海づくり」をテーマに、2022年から植林活動を実施しています。今回は5回目の開催となり、3品種のしだれ梅90本を植樹しました。参加者は、「楽しかった」「上手に植えられてよかった」と話していました。

浩昭さん(左)と妻の月美さん(右)。家族への感謝を胸に天皇陛下に拝謁



春の瑞宝双光章を受賞

長年にわたり医療の発展に貢献令和8年春の叙勲で、牧浩昭さんが瑞宝双光章を受章しました。牧さんは、診療放射線技師として三重大学医学部附属病院に40年以上勤務し、20年以上にわたり血管X線撮影業務に従事してきました。また、放射線部技師長として11年間、人材育成や組織運営に尽力し、近年はいなべ市を含む県内医療機関をつなぐ医療DXの推進にも携わっています。牧さんは、「今後も地域医療の発展に貢献していきたい」と話していました。